

教育学・心理学

**keyword**

- メディア情報学
- 情報学教育
- 教育情報化
- ICT 活用
- e-Learning
- 情報安全教育



**松原 伸一**  
Shinichi Matsubara

大学院高度教職実践専攻  
教授

**【プロフィール】**  
● 略歴  
・慶應義塾大学大学院  
工学研究科, 工学修士  
・博士(学術) 神戸大学

**【主な社会的活動】**  
**研究会活動**  
・情報学教育研究会 代表  
・教育情報化推進研究会 代表  
・情報学教育フォーラム 議長

**学会活動**  
・日本情報科教育学会 理事  
・日本産業技術教育学会 評議員

**委員・講師等**  
・教育の情報化研修講座(滋賀県総合教育センター), 講師  
・滋賀県総合教育センター, トータルアドバイザー  
・教育情報化推進事業(滋賀県, 彦根市立鳥居中学校)講師

**【主な著書】**  
・ソーシャルメディア社会の教育 (単著), 開隆堂, 2014  
・情報学教育の新しいステージ (単著), 開隆堂, 2011  
・デジタル環境論(単著), ナカニシヤ出版, 2004, など

**【科学研究(研究代表)】**  
・教職実践のための Web コンテンツを活用した情報学教育研修カリキュラムの開発(2016~2019)

**【連絡先】**  
matsubar@edu.shiga-u.ac.jp

**【代表的な研究テーマ】**  
**□ “教育の情報化”における情報学教育の推進**

**課題解決に役立つシーズの説明**

**文理融合の情報学に基づく“基礎”から“応用”までの総合的な展開**  
人類は2つの“価値ある空間”で生活している。その営みは、現実社会の物理空間と限りのない仮想空間とが重畳したマルチコミュニティの中で成立している。すなわち、私たちの生活圏は、もともと、質量のある物が支配するリアルな空間(物理空間)において、限りある資源とエネルギーを消費して成立し、この点では今も変わりが無い。しかし、人類の発明したコンピュータは、既に電子計算機としての域を超え、質量のない情報が支配するバーチャルな空間(仮想空間)を創出している。その後のネットワークの進展は、知識のクラウド化に貢献し、情報機器のモバイル化は、SNS (Social Networking Service) を登場させ、社会への影響を多大なものに変貌させている。結局のところ、社会の情報化は、メディアの社会化とともに、情報の社会化という現象を生じ、ソーシャルメディアとしての存在感を顕著にしている。その結果、ネットワーク上に形成された複数の仮想世界との多重化した空間(マルチコミュニティ)にまで影響が及んでいる。  
したがって、私たちは、ソーシャルメディアを介して、現実世界と仮想世界が多重化する新たな世界であるマルチコミュニティを新しい環境として受け入れるとともに、関係する新たな知識を整理して共有する必要がある。  
※松原伸一著『ソーシャルメディア社会の教育』(開隆堂, 2014)の「まえがき」より一部引用

**【1】メディア情報学としての展開 ~文理融合の学術的な基礎研究を教育への応用に向けて~**  
情報とメディアをキー概念として、社会的、心理的、工学的、…などの種々の視点から、情報学の新しい展開に貢献し、教育への応用を進める。  
松原伸一著『デジタル社会の情報教育』, 開隆堂, 2002.  
松原伸一著『デジタル環境論~デジタル環境が及ぼす人間生活への影響』, ナカニシヤ出版, 2004, など

**【2】教育の情報化としての展開 ~学校におけるプログラミング教育の充実に向けて~**  
政府が進める政策としては、日本再興戦略 - JAPAN is BACK-(2013), 「世界最先端 IT 国家創造宣言(2014), 教育再生実行会議第七次提言」(2015), 産業競争力会議(2016)では、ICT 活用による学びの環境の革新と情報活用能力の育成が挙げられ、その具体的な一例として、初等中等教育におけるプログラミング教育の必修化が話題である。この研究活動については、やっと緒についたという感であるが、筆者としては、26年前からの研究課題でもあり、今年度より、(新)学校におけるプログラミング教育として、さらに進んだ研究活動(基礎から応用まで)を行っている。  
松原伸一著『学校におけるプログラミング教育』オーム社, 1990. ※プログラミング教育に関する最初の著  
松原伸一著『教育の新科学化: 初等中等教育に一貫した情報学教育』情報学教育研究会, 2016. ※最新の著

**【3】教育支援環境の構築としての展開 ~実践的な教育支援に向けて~**  
各種の新しく提案した教育内容や教育方法について、その具体的な展開として「支援環境の構築」を進めている。これらの成果を全国に発信するため、教育情報化推進研究会、及び、情報学教育研究会を組織・運営している。さらに、各団体と連携して、情報学教育フォーラムなども開催している(下図を参照)。詳細については、情報学教育ポータルサイト(<http://www.mlab.sue.shiga-u.ac.jp/iseps/>)を参照されたい。

情報学教育ポータルサイト ISEPS (Ver. 4.1) 2016年10月2日 更新  
**情報学教育ポータルサイト**  
ISEPS: Information Studies Education Portal Site

研究組織など	発行物	具体的な展開/学習環境等
教育情報化推進研究会 SIG_EEP	・EEPニュースレター 第7号	協働学習支援環境 CLSE
教員研修 特別ワーキング WG_TTP	(教職大学院と連携) 教員研修プログラム	教員研修環境 TTE
情報学教育研究会 SIG_ISE	・情報学教育研究 2015, 2016 ・情報教育の充実に向けて 第1版 第2版	情報学教育協働学習環境 New IESCL
教職実践 特別ワーキング WG_PTG	(教職大学院と連携) 教職実践カリキュラム	教職実践環境 PTE
情報学教育フォーラム ISEF	・情報学教育論 第1号 第2号 ・ISEPニュースレター 第1号 第2号	第1回 第2回 第3回 第4回
新学校におけるプログラミング教育 New PEAS	・プログラミング教育ポリシー	プログラミング教育支援環境 Advanced PEAS-nd
松原研究室 (MLab) 滋賀大学教育学部 / 大学院教育学研究科 新設大学院(平成29年4月より)		